

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成30年6月28日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 11名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	5名	

※事業所記入

事業所番号	3890101599
事業所名	グループホーム さわや家
(ユニット名)	サックス
記入者(管理者)	
氏名	井上 美恵子
自己評価作成日	30年 6月 8日

<p>【事業所理念】 ・利用者様と地域社会に尽くす・あかるく、のびのび、さわやかに</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ※新設事業所のため、前回の外部評価実績なし</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 平成29年7月に新設され、地域密着型特別養護老人ホームと併設した建物3階の1フロアが事業所である。開設当初より地域住民に歓迎され、地域行事や事業所行事への参加交流がある。事業所スペースを提供し、地域行事や集まりに使ってもらうことで、気軽に地域住民が訪れている。防災意識が高い地域であり、地域の声を反映する取組みとして、福祉避難所の指定を受けた。開設後、初回の自己評価を全職員で取り組むことで、この1年を振り返るきっかけとなり、課題の発見や強みを明確にすることができた。学びの機会を増やしたいと意欲にあふれ、今後の成長が楽しみな事業所である。</p>
---	---	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	日常生活の会話等から思いを汲み取り参考にしている。	○	/	△	利用者が発言しやすい雰囲気や問いかけ方に配慮して、日常の生活で関わりを深めながら思いを引き出せるように努めている。現在入居する利用者は意志を口にできていてと感じているが、一人ひとりの思いに対する十分な理解という面において、今後じっくり向き合う必要性を感じている。一人ひとりの思いを把握する方法について、検討できる機会を持てることに期待したい。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	△	入居時の情報や職員、家族等チームケアにて検討している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	本人をよく知る人の面会時や電話の際に話し合っている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	毎月1回のユニット会を行い一人一人の思いを整理し、議事録や日々の評価表やケース記録等にて共有化している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	毎月1回のユニット会を行い入居者一人一人の思いを整理している。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	アセスメントシートを読んだり、依然関わった介護事業所、家族や職員から聞いている。	/	/	△	入居時にこれまでの生活歴を利用者や家族、サービス事業所等の関わりを持つ人から情報を得てまとめている。入居後の生活の中で新たに知る本人の情報は、即日職員同士で情報を共有したり、カンファレンスで話し合っている内容を記録し、定期的にあセスメントを更新していけることに期待したい。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	アセスメントシートを読んだり、依然関わった介護事業所、家族や職員から聞いている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	アセスメントシートを読んだり、依然関わった介護事業所、家族や職員から聞いている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	○	アセスメントシートを読んだり、依然関わった介護事業所、家族や職員から聞いている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	夜勤日誌、生活日誌や24時間シート、申し送りノートの活用、職員間で話し合っている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	ユニット会にて話し合っている。又家族に聞いたり表情で確認したりしている。	/	/	○	家族等を含めた担当者会議や、毎月のユニット会で職員が話し合うことで、利用者の必要としていることについて、本人視点で検討し課題を共有している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	毎月1回のユニット会を行い、入居者一人一人の思いを整理している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	毎月1回のユニット会を行い、入居者一人一人の思いを整理している。又情報共有を徹底し介護計画の見直しに活かしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームさわや家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	サービス担当者会議を行う際、家族や本人・職員の意向を持った内容	/	/	/	担当職員と計画作成担当者が、担当者会議やユニット会で話し合った内容やアイデアを反映させながら介護計画を作成している。担当者会議及びユニット会の議事録を残している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	サービス担当者会議を行う際、家族や本人・職員の意向を持った内容を反映し作成している。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	サービス担当者会議を行う際、家族や本人・職員の意向を持った内容	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	毎週金曜日午後からの地域の人との交流会に極力参加して頂いている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	朝、夕の申し送り時に共有している。又利用者の個人ファイルの介護計画をチェックしている。	/	/	○	介護計画の内容は申し送りで共有し、個人ファイルに挟み確認している。計画作成担当者が、介護計画の目標から特に毎日取り組みたい課題を抜粋し、評価表に日々の実施内容と○×の記号評価を記入し、毎月のモニタリングへとつなげている。個人の記録は時系列に沿って丁寧に記録しているが、発言やエピソードなどを交えた具体的な内容や、利用者の生活に一番身近な存在である職員ならではの気づきや工夫、アイデアを記録できるようにしてほしい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	職員間で分かるように記録している。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的な内容を個別に記録している。	○	評価表やケース記録に記入している。	/	/	△	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	評価表やケース記録に記入している。	/	/	△	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	毎月1回のユニット会を行い、入居者一人ひとりの思いを整理している。	/	/	◎	介護計画の見直し期間の管理はそれぞれの計画作成担当者が管理し、3か月から半年毎に見直しを実施している。毎月のユニット会では全利用者の現状確認を行い、心身状態や暮らしの状態に変化が見られるときは随時家族等と担当者会議を開催して話し合い、新たな計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	毎月1回のユニット会を行い、入居者一人ひとりの思いを整理している。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	暮らしの状態に変化が生じた場合、サービス担当者会議を行い、新たなサービス計画を作成している。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	定期的にあるいは緊急案件がある場合、サービス担当者会議を行い、新たなサービス計画を作成している。	/	/	○	家族等を含めた担当者会議や、毎月のユニット会、緊急時にはその都度と、話し合いの場を設けている。申し送りで伝えるほか、話し合いの内容は議事録にまとめて伝達している。確認後は押印・サインでチェックする書類もあれば、していない書類もあるので、確実に伝達完了確認が一目できるように統一することを望みたい。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	発言しにくい職員には発言をしやすい様に務めている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	ユニット会:毎月第3木曜日15時30分～サクスクユニットにて開催している。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	記録をまとめて共有出来るようにしている。	/	/	△	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	議事録や申し送りノートを活用している。	/	/	△	申し送りノート、話し合いの議事録で全職員が情報を共有している。確認後は押印・サインでチェックする書類もあれば、していないものもあるので、確実に伝達が完了した確認ができるよう統一することを望みたい。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	議事録や申し送りノートを活用している。	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	1か月のレクリエーションを作成し実施している。	/	/	/	更衣や飲み物、レクリエーションへの参加など、一日を通じてその都度利用者が自分で選択する場面を設けている。利用者が得意とすることや役割を通じて表情が輝くキーワードを発見できている場合もあるが、管理者は全利用者の生き生きとした言動や表情を引き出す言葉がけや雰囲気づくりを見直したいという気付きを持っている。利用者一人ひとりの意向を大切に、今後の支援について検討する機会を設けて欲しい。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	入浴等の着替えを極力入居者の方に選んでもらっている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	飲み物の選択、カラオケ等の選曲、レクリエーション等の参加での支援時。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	入居者一人ひとりのペースや習慣を大切にしている。	/	/	/	
		e	利用者の生き生きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うらおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	明るい笑顔で声掛けを行っている。又昔の話をしたり本人が興味がある話をしている。	/	/	△	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	サックスユニットには該当者なし。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	誇りやプライバシーを大切に声掛けする様に心掛けている。	◎	◎	○	管理者は利用者を敬う気持ちを一番大切にしたいと考え、気になる対応があれば声をかけている。職員は虐待や身体拘束、接遇などの勉強会を通じて人権や尊厳について学んでいる。日頃、声かけや居室への入室など、プライバシーに配慮する対応に努めているが、今回の自己評価を通じ、声かけ方法や居室への出入りのマナーを振り返り、徹底できていないことや、配慮が必要なことへの気付きを持った。今回の気付きを今後の対応にどう活かしていくか、取組みに期待したい。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	排便を確認する時やトイレ誘導時等さりげない声掛け出来ていない時がある。	/	/	△	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	排泄時や入浴時には、プライバシーに配慮している。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室掃除やシーツ交換・洗濯物の出し入れの時は、利用者さんに声掛けてから出入りしている。	/	/	△	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	ユニット会や利用者についての話し合いの時以外は、個人情報は持ち出していない。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	家事を手伝って頂いたりした時に、感謝の気持ちを伝えている。	/	/	/	利用者同士の相性や特性を把握した配席誘導や見守りができている。開設後1年が経過し、関係が深まっている様子も伺えるようになり、声かけには世話役の利用者の力も借りている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者一人ひとりの出きる役割を持って生活して頂いている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	食事の席は、仲の良い利用者を同席させている。又職員の声掛けで聞いてくれない場合は仲の良い利用者に声掛けをお願いする時もある。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	座席などの配置を替えてみる等して対応している。	/	/	/	

愛媛県グループホームさわや家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	アセスメントシートを読んだり、依然関わった介護事業所、家族や職員から聞いている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	アセスメントシートを読んだり、依然関わった介護事業所、家族や職員から聞いている。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	家族の方と外出する方もいます。外出レクでお花見に行ったり、喫茶店に行ったりしています。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	常に面会出来る環境作りをしている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	日常的な外出は出来ていないが、週1回の訪問販売や外出レクを行っている。	×	△	△	季節の移り変わりを楽しむ気分転換として外出行事を楽しんだり、外出することが苦手な利用者が一歩外へ出てみたくなるような企画を工夫して実施している。重度の利用者も含め状態に応じて、広い敷地内を活用した散歩は日常的に行っているが、敷地外への外出支援は日常的に実施していない。一人ひとりのその日の希望に沿い戸外で過ごすためには、どんな支援ができるか職員間で検討して欲しい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	一度、運営推進会議を通じて地域の方と一緒に餅つきに参加。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	状態を観て、散歩している。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	外出レクでお花見に行きました。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	月1回のユニット会、職員同士で話し合っケアを行っている。	/	/	/	管理者は、レクリエーションや家事、作業の提供が得意な傾向があると職員を評価している。過度な介助を控え、利用者のできることやできそうなことを見守ったり一緒に行うことで、心身機能の維持・向上を図る取組みが自然に身に付いている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	1日1回以上はリハビリ体操を行い、夜間オムツの利用者は日中はトイレ誘導を行っている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	リハビリ体操やちぎり絵、新聞広告を使ったゴミ箱作り等に参加。又車椅子の自走が出来る利用者は声掛けしながら見守っている。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	アセスメントシート・介護日誌・ケアプランを読んだり、依然関わった介護事業所・家族や職員から聞いている。	/	/	/	家事や作業にやりがいや役割を持っている利用者もいるが、全員ではない現状にある。利用者一人ひとりが楽しみごとや役割、出番が持てるよう取組みに期待したい。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	月1回のユニット会、職員同士で話し合っている。又利用者の方が出来る事(洗濯畳、おしぼり巻き、お盆拭き等)を手伝って頂いている。	○	◎	△	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	毎週金曜日午後からの地域の人との交流会に極力参加して頂いている。	/	/	/	

愛媛県グループホームさわや家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	入浴等の着替えを極力入居者の方に選んでもらっている。又起床時、入浴後は髪の手だしなみを整えている。	/	/	/	利用者はスッキリと身だしなみを整え、季節に応じた状態であり、衣類の乱れなどをそと直す場面も見られ、配慮ある対応に努めていると感じられた。現在、重度な状態である利用者はいないが、職員は日々身だしなみが整うよう支援したいと感じている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	本人、家族に馴染みの物品(衣類(夏服や冬服の準備)、小物等)を持って来てもらっている。又髪のカットは業者、家族へお願いしている。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	一緒に考えたりアドバイスをし支援を行っている。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出や年中行事等も、一緒に考えたりアドバイスをし支援を行っている。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	入浴、排泄、食事等、本人のプライドを傷付けないように支援している。	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	施設では1か月1回程、又家族送迎にて本人の馴染みのある美容室を利用されている方もいます。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	毎日身だしなみを整えさせて頂いている。	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	管理栄養士によるバランスの良い食事を召し上がって頂いている。	/	/	/	法人栄養士がバランスのとれた献立を立案し、一括で食材を準備している。調理専門の職員を配置し、2ユニット分を調理している。キッチンユニットそれぞれにあり、食後の後片付けを同じテーブルに着く利用者同士が行っている姿が見られた。好みや嗜好、アレルギーに関して入居時に把握し、状態によって食材を代替して対応している。食器類は使い慣れた持ち込みのものや、使いやすいものを事業所で準備して使用している。職員は利用者の食事の介助や見守り、箸が止まってしまうがちな利用者に食べてみようかなという気分を高める声かけを行ったりとサポートしている。職員は交代で休憩を取るため一緒に食事は摂っていないが、同じテーブルでおやつや飲み物を摂り、一緒に過ごす時間を作る工夫をしてほしい。離床が困難な重度の利用者は現在いないが、食事介助が必要な利用者には細やかに説明を取り入れながら、他の利用者との会話を楽めるよう支援している。法人栄養士に栄養や調理の相談ができ、アドバイスを受けられるが、利用者のリクエストに応じたり、昔のなつかしさを楽める献立を取り入れるなど、協力が得られるよう連携を高めて欲しい。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	使ったお盆を、入居者の方に拭いて頂いている。	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	現在は、使ったお盆を、入居者の方に拭いて頂いている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入居者一人ひとりの苦手な食べ物は認識している。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	管理栄養士の作成した献立に基づいて、調理を行っている。(季節の食材を取り入れたメニューになっている。)	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法とつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	咀嚼・嚥下の低下が観られる入居者の方に合わせて、形態を工夫している。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	△	全ての入居者の方ではないが、馴染みのある食器等を利用している。	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	×	一緒に食事をしていないが、介助や見守り等を行っている。	/	/	△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	食事のメニューを説明しながら召し上がって頂いている。又調理の様子や匂いを感じる事が出来る。	◎	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	食事量の少ない方には、時間を置いて再度召し上がって頂いたり、水分摂取が少ない方には、本人が好む飲み物を飲んで頂くように対応している。	/	/	/	
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	食事量の少ない方には、時間を置いて再度召し上がって頂いたり、水分摂取が少ない方には、本人が好む飲み物を飲んで頂くように対応している。	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	管理栄養士の作成した献立を職員同士が話し合って作っている。又管理栄養士からのアドバイスも頂いている。	/	/	○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	業者に新鮮な食材を前日に持って来てもらい、消毒、賞味期限の管理を行っている。	/	/	/	

愛媛県グループホームさわや家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	勉強会に参加、議事録やインターネットを通じて職員が認識している。	/	/	/	口腔内の違和感や義歯の不具合などの訴えがある場合は、訪問歯科受診につなげ、早期対応に努めている。自分で口腔ケアができる利用者には声かけ誘導しながら見守り、必要に応じて介助して清潔保持できるよう努めている。自分で口腔ケアができる利用者の口腔内の健康状態は見落としがちになるため、定期的に全利用者の把握をしていくことを期待したい。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	理解している。利用者の訴えにすぐ対応し歯科受診に繋げている。	/	/	△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	×	指導を受けていない。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	毎食後の口腔ケア・夕食後(入れ歯の入居者)の洗浄剤に付けて管理等にて対応している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	毎食後の口腔ケアを声掛けし必要な時は支援をしている。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	歯科往診を利用している。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	出来るだけオムツは使用せず、トイレを利用している。	/	/	/	トイレでの排泄を基本とし、できることが継続できる、身体状態に応じた排泄支援を検討している。排泄チェック表を活用し、排泄用品の使い方などの勉強会も受講し、適切な排泄ケアにつなげるように努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	△	水分摂取をコマめに行える様に声掛けしている。又今後は勉強会にて、職員全体に理解して頂く。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	生活日誌や24時間シート等にて把握している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	利用者の状態に応じて、オムツ利用する時がある。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	医師や職員・家族等と話し合っており取り決めている。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	生活日誌や24時間シート等を参考にしている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	初めてオムツを使用する時は、本人・家族・職員と話し合っている。又家族には使用オムツの料金等を説明してから使用している。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	利用者の状態に合わせて使い分けている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	水分を多く取ってもらったり、トイレ誘導の方には、排便を促す(「の」の字)円運動を行って対応している。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	週2回(日曜日除く。)の午前中入浴で、利用者の体調により体調が出来ない時は清拭を行っている。	◎	/	○	週2回、午前中の中の入浴時間は固定しているが、利用者の希望や体調に配慮して順番を調整したり、声かけを工夫して入浴支援を実施している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	利用者の希望の石鹸や洗身タオルを利用したり、室温や湯加減に注意して行っている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	着脱や洗身・洗髪等、本人が出来る事はして頂いている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	時間をずらしたり、曜日を替える等にて対応している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	毎朝バイタルチェックを行い、体調不良時には曜日を替えたり清拭を行っている。又入浴後は水分補給をして頂いている。	/	/	/	

愛媛県グループホームさわや家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	生活日誌や24時間シート等を参考にしている。	/	/	/	不眠傾向が見られる場合、入居前後の生活リズムを確認し、日中の過ごし方や支援内容を検討している。本人の持つリズムを大切に、個々の状態に合わせた支援に努め、必要に応じて医師に相談している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	夕方のコーヒーは控えてもらったり、日中はなるべく起きて頂いて(レクや本人の趣味等。)、夜は疲れて休んで頂くように支援している。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	医師や職員・家族等と話し合っており、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	各利用者の体調に合わせて実施しているが、昼夜逆転にならない程度で行っている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	利用者の希望があれば、実施している。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	利用者の希望があれば、サポートしています。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	利用者の希望があれば、実施している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	届いた年賀ハガキ等は、本人へ報告し手渡し家族にも報告しています。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	仕事の都合で面会出来ない家族、遠方の家族からは電話や手紙等にも対応出来るようにしています。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	金銭管理出来る利用者には、週1回の訪問販売の時等に参加していただいている(社会参加の為)。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	金銭管理出来る利用者には、週1回の訪問販売の時等に参加していただいている(社会参加の為)。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	週1回の訪問販売の業者の方には理解して頂いている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	金銭管理が出来る利用者1名のみ買い物に同行し支援している。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	ホームで管理をする事に理解して頂いている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	事務所に出入帳を管理している。金銭が不足したら家族へ電話連絡を行い、支払と領収書・出入帳の確認もしている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	外部での通院で家族が出来ない場合、又は他の福祉や介護サービス(介護タクシーや実費のヘルパー等)のご説明や連絡・調整等も行っている。	◎	/	○	利用者や家族等のニーズに対し、外部サービスの活用を検討するなどの対応を柔軟に行っている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	1階入り口は日中は解放している。グループホーム3階エレベーター・ユニットの玄関はオートロックにて対応している。	◎	◎	○	エントランスホールは明るく整備され、やわらかい色調で親しみやすさを感じられる。事業所がある建物3階のホールには、年代物の端午の節句兜や古筆筒、茶道具を職員や代表者が持ち寄り、季節に応じた和みの空間が演出されていた。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	利用者の方々が作った作品や行事で撮った写真等を掲示している。又利用者の方々に気軽にソファに寛いだり、テレビを観たりして心地よく過ごして頂けるようにしている。	◎	○	○	共用の空間はどれも十分な広さと高さがあり、落ち着いた色調の壁面や家具、さまざまな場所にソファを設置している。紫陽花の花を見て利用者同士が会話を楽しんでいる和やかな雰囲気が見られた。整理整頓が行き届き、エアコンの風量をルーバーで調節して居心地よく過ごせるよう配慮している。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	日勤者が毎日各居室、ホール・廊下等を掃除をしてチェックしている。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節の花(手作りの花も含む。)や音楽等にて心地よく過ごして頂いている。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	各利用者の方々のペースにて過ごして頂けるように支援している。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	トイレや浴室は引き戸にて対応している。使用時は必ず閉じています。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	利用者の方の馴染みの有る物を持って来て頂いている。	◎	/	○	居室には利用者の好みのものを自由に配置して、居心地よく過ごしてもらっている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	各居室やトイレ等に表札や表示を行い、一人で自立した生活が出来るように配慮しています。又身体状況に応じて歩行器、車椅子等も使用。	/	/	○	自分の席がわからなくなりがちな利用者には自分の席がわかるようにテーブル表示したり、共用のトイレには利用者目線の高さに表示を掲げ、お風呂には大きなのれんがかけられ雰囲気を演出しながらもわかりやすさに配慮している。車椅子や歩行が安定しない利用者が安全に移動できるよう、動線の安全確保に努められていた。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	共用空間には、細々した物は置かないようにしている。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞や雑誌等は自由に読めるようにしている。	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	×	ユニットの玄関にはオートロックにて対応している。(利用者の安全を第一に考え事故防止の為)	◎	◎	×	両ユニット出入り口にはテンキーの施錠システムがある。鍵をかけることの弊害について学ぶ機会もあり、現在の事業所での取組みが完全に利用者にとって自由な暮らしであるかと問いかけてもいる。建物全体のセキュリティ上、施錠システムを活用する事については家族等や地域住民に説明し、理解は得ている。今後も現在できる最大限の対応について検討したり、正しい認識を学ぶ機会を継続させ、鍵をかけないケアについて問い続けて欲しい。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	×	ユニットの玄関にはオートロックにて対応している。家族には理解を得ている。(利用者の安全を第一に考え事故防止の為)	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	×	ユニットの玄関にはオートロックにて対応している。家族には理解を得ている。(利用者の安全を第一に考え事故防止の為)	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	アセスメントシート等の資料や職員からの情報等にて把握している。	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎朝バイタルチェックを行っている。又各利用者の状態の変化があればバイタルチェックを随時行っている。・記録はケース・24時間シート等に記入している。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	気になる事があれば管理者へ連絡している。管理者の了解があれば、かかりつけ医・病院又は往診にて対応している。	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	希望の医療機関があれば受診して頂いている。	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	希望の医療機関があれば受診して頂いている。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	必要に応じて本人や家族等に合意を得られるように話し合っている。	/	/	/	
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	病院のソーシャルワーカーと管理者又はケアマネにて連絡・調整を行っている。	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	病院のソーシャルワーカーとケアマネにて連絡・調整を行っている。	/	/	/	
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	必要に応じて情報交換を行っている。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	かかりつけ医へ相談している。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	かかりつけ医へ直通で電話連絡している。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	事故や状態変化時は、医師に報告し指示を受けている。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	各利用者のファイルに閉じている処方薬を確認しています。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	利用者の名前を読み上げ、又職員にも確認してもらってから服用して頂いている。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	各利用者のファイルに閉じている処方薬(一覧)を確認しています。	/	/	/	
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	普段と違った薬を利用の方が服用された時は、ケース記録、24時間シート・生活日誌等に記入している。	/	/	/	

愛媛県グループホームさわや家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時、ご家族に(今後進行して重度化した時の対応について)書類を確認して頂き、それぞれの項目に記入して頂いている。又その書類はグループホームにも保管している。	/	/	/	事業所での看取りの実施はなく、利用者の状態に応じて家族等や協力医療機関と方針を共有している。また法人グループ内でフォローできる体制を整えている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	入居時、ご家族に(今後進行して重度化した時の対応について)書類を確認して頂き、それぞれの項目に記入して頂いている。又その書類はグループホームにも保管しているが、かかりつけ医とはまだ話し合っていない。	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	○	各利用者の終末期の対応について、どこまでの支援が出来るのか見極めが出来ている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	入居時に十分な説明を行っている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	状況に応じてかかりつけ医・家族と交えて話し合いながら支援を行っている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	利用者の日常生活の経過や情報等を面会時や電話連絡時に報告し対応している。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	勉強会に参加、議事録やインターネットを通じて職員が認識している。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	マニュアルを見て対応できるようにしている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	道真会での通知やニュースや新聞等でも情報収集に努めている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	道真会での通知やニュースや新聞等でも情報収集に努めている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	職員は手洗いやうがい・マスクを着用している。来訪者にもマスクの着用をして頂いている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	日中・夜間の生活を家族様へお伝えし、入居者の方についての支援について話し合っている。				毎週開催される地域住民との交流会、事業所や法人内で行われる行事には参加の呼びかけを行い、家族等が事業所での暮らしに触れられる機会を設けている。事業所だよりの発行を開始し、来訪する機会が得られにくい遠方の家族へも利用者の暮らしが伝わるよう改善に取り組んでいる。運営上の事柄や出来事について、面会や連絡毎に伝えてはいるが、家族が十分に理解できている状況ではないため、伝え方を改善していく必要性があり、今後の取組みに期待したい。家族等が気軽に意見を発言できるよう、どの職員も来訪時には声かけを実施している。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	(9時～19時)面会はホール又居室にて、ゆっくり過ごして頂けるようにしている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	毎週金曜日の地域での交流会やクリスマス会の参加等の声掛けを行っている。	△		○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	△	金銭管理での残不足や外出レクの承諾・結果報告等を行っているが、今後は「たより」を発行して、入居者の方々の日常生活の様子をお伝えしたい。	○		○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	金銭管理での残不足や外出レクの承諾・結果報告等の時や面会時にお話している。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	金銭管理での残不足や外出レクの承諾・結果報告等の時や面会時にお話している。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	金銭管理での残不足や外出レクの承諾・結果報告等の時や面会時にお話している。	×		△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	出来ていない。今後は家族会も検討して行く。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入居前・面会時や事故が起きた時に家族へ連絡を行っている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	入居前・面会時や事故が起きた時に家族へ連絡を行っている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	入居前・面会時や事故が起きた時に家族へ連絡を行っている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	入居前に説明している。退去事例がないがその体制がある。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	入居前に十分な説明を行っている。又変更があれば随時報告を行っている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	町内会・民生委員の方々とは話し合っている。	/	◎	/	事業所の開設と町内会役員の代替わりが重なったこともあり、共に成長し、共に協力し合える関係性がスムーズに構築されている。地域住民と交流する機会が毎週あり、建物スペースを提供し気軽に利用してもらっている。今後も活動を継続しながら、利用者が地域とどうつながりながら暮らし続けられるかと工夫に取り組んでいけることに期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	運営推進会議2ヶ月に1回実施している。又毎週金曜日13時30分～地域の方々との交流会(カラオケ・映画・演奏会等)を開いている。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	毎週金曜日13時30分～地域の方々との交流会(カラオケ・映画・演奏会等)を開いている。	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄りたり遊びに来たりしている。	○	毎週金曜日13時30分～地域の方々との交流会(カラオケ・映画・演奏会等)を開いている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	毎週金曜日13時30分～地域の方々との交流会(カラオケ・映画・演奏会等)を開いている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	毎週金曜日13時30分～地域の方々との交流会(カラオケ・映画・演奏会等)を開いている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	毎週金曜日13時30分～地域の方々との交流会(カラオケ・映画・演奏会等)を開いている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	毎週金曜日13時30分～地域の方々との交流会(カラオケ・映画・演奏会等)を開いている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。運営推進会議2ヶ月に1回実施している。	×	/	△	家族等や地域住民の参加を得て開催しているが、固定化に傾き、興味を持ってもらうきっかけが必要な状態にある。報告書や議事録に話し合いの様子を詳細にまとめており、いつ誰もが閲覧可能な状態であるが、おたよりの送付時に同封するなどして参加できなかった家族等に周知することで理解を深め、参加協力が得られるように取り組んで欲しい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	今後の運営推進会議は、管理者、ケアマネ以外の職員も参加する予定。日程は運営推進会議終了後に次回開催を述べている。	/	/	◎	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	運営推進会議の議事録を公表している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	朝の申し送り時に理念を唱和している。又「あかるく のびのび さわやかに」の気持ちで仕事に取り組んでいる。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	×	出来ていない。今後は「おたより」等を活用しお伝えしたい。	×	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	取り組んでいる。	/	/	/	代表者は現場への理解が深く、管理者や職員からの意見を吸い上げ、働きやすい労働環境の整備に努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるように取り組んでいる。	○	取り組んでいる。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	取り組んでいる。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	取り組んでいる。連絡会等に参加している。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	取り組んでいる。	◎	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	勉強会に参加、議事録やインターネットを通じて職員が認識している。	/	/	/	学びの機会を持ち、正しい共通認識で統一できるように努めている。職員同士のケアを客観的に見つめながら、適切なケアであったか検討する意識を持っているが、経験の浅い職員には迷いが生じる心配もある。今後も正しい理解を深めると共に、話し合いの場を設けたり、対応方法などについても学んでいけることに期待したい。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	月1回のユニット会時に利用者に一人ひとりのケアについて話し合っている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	勉強会に参加、議事録やインターネットを通じて職員が認識している。又事務所に掲示している。	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	注意を払っているが点検とまではいかない。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	×	しっかり話し合いが出来ていない事もある。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	勉強会に参加、議事録やインターネットを通じて職員が認識している。又職員間で話し合っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。		該当者なし	/	/	/	

愛媛県グループホームさわや家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	×	今後は勉強会にて、職員全体に理解して頂く。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	該当者がいないが、相談があればパンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行う。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	該当者がいないが、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルを作成し周知している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	出来ない職員は今後研修会に参加する。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	その都度、職員間で話し合っている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	事故発生時や、ユニット会等にて話し合っている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	管理者へ報告や意見箱の設置し対応している。又苦情があれば各職員へ報告している。又マニュアルを作成している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等を行う。	○	対応している。又、該当者がいないが必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等を行う。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	出来ている。(苦情があったら速やかに対応している。)				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	家族、又は管理者へ相談したり、3階エレベーター前に意見箱を設置している。又入居前に、書類等にて本人・家族へ説明を行っている。			○	利用者からは日常生活の中で意見や要望が聞かれ、思いを伝えにくい利用者には個別に話しかけている。家族等に対し意見箱の設置もしているが、直接意見を伝えてくれていると実感している。管理者と職員との信頼関係が大変深く、介護業務にも従事するため思いを共感し合っており、利用者本位の支援につなげることができている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	3階エレベーター前に意見箱を設置している。又入居前に、書類等にて本人・家族へ説明を行っている。	○		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	機会をつくっている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	出来ている。(朝の申し送りやユニット会に参加し機会を設けている。)			○	

愛媛県グループホームさわや家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	行っている。				※初年度につき、外部評価実績なし。今後の取り組みのモニターとして協力が得られることに期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	H29.7.1～開設の為、まだ実施していない。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	H29.7.1～開設の為、まだ実施していない。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	H29.7.1～開設の為、まだ実施していない。	×	○	-	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	H29.7.1～開設の為、まだ実施していない。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアルを作成している。又消防署が来所され消防訓練を行っている。				地域防災に意識を高く持った住民との協力・支援体制が築かれている一方で、家族等からは不安感が高まっている現状にある。合同での訓練や話し合う機会をつくることで不安を軽減させ、今後の協力・支援体制をより強固なものにして欲しい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	マニュアルを作成している。又消防署が来所され消防訓練を行っている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	マニュアルを作成している。又消防署が来所され消防訓練を行っている。(備品のチェックは定期的に行っている。)				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	マニュアルを作成している。又消防署が来所され消防訓練を行っている。	×	◎	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	マニュアルを作成している。又消防署が来所され消防訓練を行っている。又運営推進会議にて話し合っている。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	実施していない。				地域住民には、一人暮らしの高齢者や家族の介護など困った時に、相談する場として、事業所の一部を活用してもらっている。市担当者や地域包括支援センターとは良好な関係が築かれ、他の事業所とのつながりや、地域の中学校、高校とも密接につながっていきこうとする姿勢が伺える。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	電話や来所者から相談があれば随時行っている。		○	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	毎週金曜日13時30分～地域の方々との交流会(カラオケ・映画・演奏会等)を開いている。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	他のヘルパー研修の実習で参加された事もある。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	運営推進会議2ヶ月に1回実施している。毎週金曜日13時30分～地域の方々との交流会(カラオケ・映画・演奏会等)を開いている。			○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成30年6月28日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 11名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	5名	

※事業所記入

事業所番号	3890101599
事業所名	グループホーム さわや家
(ユニット名)	トランペット
記入者(管理者)	
氏名	井上 美恵子
自己評価作成日	30年 6月 8日

<p>【事業所理念】 ・利用者様と地域社会に尽くす・あかるく、のびのび、さわやかに</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ※新設事業所のため、前回の実績無し</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 平成29年7月に新設され、地域密着型特別養護老人ホームと併設した建物3階の1フロアが事業所である。開設当初より地域住民に歓迎され、地域行事や事業所行事への参加交流がある。事業所スペースを提供し、地域行事や集まりに使ってもらうことで、気軽に地域住民が訪れている。防災意識が高い地域であり、地域の声を反映する取組みとして、福祉避難所の指定を受けた。開設後、初回の自己評価を全職員で取り組むことで、この1年を振り返るきっかけとなり、課題の発見や強みを明確にすることができた。学びの機会を増やしたいと意欲にあふれ、今後の成長が楽しみな事業所である。</p>
---	---	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	日頃の会話からその人の思いが把握できるようにしている。	○	/	△	利用者が発言しやすい雰囲気や問いかけ方に配慮して、日常の生活で関わりを深めながら思いを引き出せるように努めている。現在入居する利用者は意志を口にできていないと感じているが、一人ひとりの思いに対する十分な理解という面において、今後じっくり向き合う必要性を感じている。一人ひとりの思いを把握する方法について、検討できる機会を持てることに期待したい。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	表情や仕草、態度から理解できるよう意識している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	面会時に話し合っているが、全員とはできていない。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	ケアプランに反映させ、それに沿って支援している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	△	自分の考えを優先しそうになる時もあるので、本人視点を意識していきたい。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	△	本人や家族から話の中で生活史を聞いているが全員ではないので、時間をかけてでも伺えるようにしたい。	/	/	△	入居時にこれまでの生活歴を利用者や家族、サービス事業所等の関わりを持つ人から情報を得てまとめている。入居後の生活の中で新たに知る本人の情報は、即日職員同士で情報を共有したり、カンファレンスで話し合っている内容を記録し、定期的にあセスメントを更新していけることに期待したい。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	他職員の記録、申し送り、ユニット会等で把握できるよう努めている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	日々の行動する場所や表情、言動等で把握できるよう意識している。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	把握したうえで職員同士で話し合い共有している。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	職員同士で記録、ユニット会等で共有し把握するようにしている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	常に声掛けを行い、言動や表情から何が必要かを話し合い検討している。	/	/	○	家族等を含めた担当者会議や、毎月のユニット会で職員が話し合うことで、利用者の必要としていることについて、本人視点で検討し課題を共有している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	本人や家族には会話時に、またユニット会等でも定期的に話し合いを行っている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	ケアプランに反映し、課題や目標を明確にしながら支援している。	/	/	/	

愛媛県グループホームさわや家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	△	全員、またすべてが反映できるものではないのでできていない所もある。	/	/	/	担当職員と計画作成担当者が、担当者会議やユニット会で話し合った内容やアイデアを反映させながら介護計画を作成している。担当者会議及びユニット会の議事録を残している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人、家族、職員で意見、アイデアを出し合いケアプランに反映させている。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	表情、仕草から読み取って「できる」ことに視点を当て支援している。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	家族の協力体制はあるが、地域の人との関りがなかなか取れていない。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	申し送り、ケアプラン。評価表等で共有している。	/	/	○	介護計画の内容は申し送りで共有し、個人ファイルに挟み確認している。計画作成担当者が、介護計画の目標から特に毎日取り組みたい課題を抜粋し、評価表に日々の実施内容と○×の記号評価を記入し、毎月のモニタリングへとつなげている。個人の記録は時系列に沿って丁寧に記録しているが、発言やエピソードなどを交えた具体的な内容や、利用者の生活に一番身近な存在である職員ならではの気づきや工夫、アイデアを記録できるようにして欲しい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	評価表を活用しモニタリングを行い連続した支援ができるようにしている。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的な内容を個別に記録している。	○	言動だけではなく本人の状況がわかるように記録している。	/	/	△	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	介護記録に記録し共有するようにしている。	/	/	△	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	△	現状ケアマネがモニタリング、見直しを行っているため、今後は担当職員もケアマネと相談してできるようにしていきたい。	/	/	◎	介護計画の見直し期間の管理はそれぞれの計画作成担当者が管理し、3か月から半年毎に見直しを実施している。毎月のユニット会では全利用者の現状確認を行い、心身状態や暮らしの状態に変化が見られるときは随時家族等と担当者会議を開催して話し合い、新たな計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	月に一回モニタリングを行い現状把握をしている。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	その都度見直し本人、家族、職員で相談しながら必要時にはケアプランの変更を行っている。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	△	会議はできていないが、緊急時にはその場にいる職員で相談し申し送りをしている。	/	/	○	家族等を含めた担当者会議や、毎月のユニット会、緊急時にはその都度と、話し合いの場を設けている。申し送りで伝えるほか、話し合いの内容は議事録にまとめて伝達している。確認後は押印・サインでチェックする書類もあれば、していない書類もあるので、確実に伝達完了確認が一目できるよう統一することを望みたい。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	それぞれが自由に意見が言える雰囲気になっている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	出勤者が多い日、夕方前にホールにて行いなるべく夜勤者も参加できるようにしている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	ユニット会議事録を作成し内容が共有できるようにしている。	/	/	△	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	朝夕の申し送り、申し送りノートやホワイトボードに記入し共有している。	/	/	△	申し送りノート、話し合いの議事録で全職員が情報を共有している。確認後は押印・サインでチェックする書類もあれば、していないものもあるので、確実に伝達が完了した確認ができるよう統一することを望みたい。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	生活日誌、申し送りノートを活用。また申し送り時に口頭で伝えている。	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	要望が叶えられるよう努力はしているが、人手不足や時間の都合で全員にはできていない。	/	/	/	更衣や飲み物、レクリエーションへの参加など、一日を通じてその都度利用者が自分で選択する場面を設けている。利用者が得意とすることや役割を通じて表情が輝くキーワードを発見できている場合もあるが、管理者は全利用者の生き生きとした言動や表情を引き出す言葉がけや雰囲気づくりを見直したいという気付きを持っている。利用者一人ひとりの意向を大切に、今後の支援について検討する機会を設けて欲しい。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	服を選んだりどこで過ごすかを選んだり、職員のリードではなく自己決定ができるよう意識している。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	表情や言動からその人に合わせた支援ができるよう意識して支援している。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	食事や入浴の時間は決まっているが、なるべく本人のペースに合わせられるよう配慮している。	/	/	/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	挨拶から始まり、職員が明るく接して話しやすい雰囲気作りを心掛けている。	/	/	△	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情、仕草から情報を読み取り今何がしたいかを意識して支援している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	△	時々できていない時があるので、定期的に勉強する場を設け意識していきたい。	◎	◎	○	管理者は利用者を敬う気持ちを一番大切にしたいと考え、気になる対応があれば声をかけている。職員は虐待や身体拘束、接遇などの勉強会を通じて人権や尊厳について学んでいる。日頃、声かけや居室への入室など、プライバシーに配慮する対応に努めているが、今回の自己評価を通じ、声かけ方法や居室への出入りのマナーを振り返り、徹底できていないことや、配慮が必要なことへの気付きを持った。今回の気付きを今後の対応にどう活かしていくか、取組みに期待したい。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	大声で話しかけてしまう時があるので、その人に合わせた言葉を意識していきたい。	/	/	△	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	△	忙しいとせかしてしまい配慮できていない時があるので気を付けたい。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	△	急いでいてノックを忘れてたり、ノックしてすぐ開けてしまう時があるので気を付けたい。	/	/	△	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	個人情報保護に努めている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	料理や仕事の話等、人生の先輩として話を伺ったり手伝ってもらったりしている。	/	/	/	利用者同士の相性や特性を把握した配席誘導や見守りができている。開設後1年が経過し、関係が深まっている様子も伺えるようになり、声かけには世話役の利用者の力も借りている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	一人一人のできる役割を認識しながら支援している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	席の配置や日中の過ごし方を考えながら利用者同士でコミュニケーションを取れるようにしている。またトラブルになりそうな時は職員が間に入り声掛けするよう意識している。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	△	トラブルが起きてからの対処が多いので、未然に防げるよう声掛けを行っていききたい。	/	/	/	

愛媛県グループホームさわや家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	△	家族以外の関係性を全員は把握できていない。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	×	本人や家族から話を聞くこともあるが、把握できていないことが多い。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	×	家族と外出することはあるが、職員との外出支援はできていない。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	明るい雰囲気作りに努め、面会時には話しやすい場所で過ごしていただいている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	×	施設の敷地内の散歩やお花見等の行事での外出は時々あるが、希望に沿っての外出は体制上できていない。	×	△	△	季節の移り変わりを楽しむ気分転換として外出行事を楽しんだり、外出することが苦手な利用者が一歩外へ出てみたくなるような企画を工夫して実施している。重度の利用者も含め状態に応じて、広い敷地内を活用した散歩は日常的に行っているが、敷地外への外出支援は日常的に実施していない。一人ひとりのその日の希望に沿い戸外で過ごすためには、どんな支援ができるか職員間で検討して欲しい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	協力体制が整っていない。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	施設の敷地内での散歩は時々行っている。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	家族と協力し外出する機会はあるが、地域の人との協力体制は整っていない。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	△	要因が重なり対応が難しい時があるので、職員同士で連携を取りながらケアしている。	/	/	/	管理者は、レクリエーションや家事、作業の提供が得意な傾向があると職員を評価している。過度な介助を控え、利用者のできることやできそうなことを見守ったり一緒に行うことで、心身機能の維持・向上を図る取組みが自然に身に付いている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	食事前の体操や、その人に合ったリハビリを取り入れることを日々取り組んでいる。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	本人のできる、できないを把握した上で支援しているが、時々口を出してしまうこともあるので、できることは見守れるよう意識したい。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	生活歴や普段の会話から本人のできることや楽しみを把握できるよう努めている。	/	/	/	家事や作業にやりがいや役割を持っている利用者もいるが、全員ではない現状にある。利用者一人ひとりが楽しみごとや役割、出番が持てるよう取組みに期待したい。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	日々楽しみや喜びが持てるよう意識しているが、全員にできていない時もあるので、個別に対応できるように意識したい。	○	◎	△	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	地域レベルの支援体制が整っていない。	/	/	/	

愛媛県グループホームさわや家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	身だしなみや服装から本人の好みや個性を把握している。	/	/	/	利用者はスッキリと身だしなみを整え、季節に応じた状態であり、衣類の乱れなどをそと直す場面も見られ、配慮ある対応に努めていると感じられた。現在、重度な状態である利用者はいないが、職員は日々身だしなみが整うよう支援したいと感じている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	△	全員にはできていないので、本人の個性や好みが生かせるよう支援したい。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	何個か例を提示し選んでもらえるよう支援している。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	△	外出時には配慮しているが、行事の際にはできていないこともある。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	特に起床時や口腔ケア時には意識して整えている。	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	×	訪問の散髪にて対応している。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	整容時や更衣の際、表情や仕草から意思表示をもらっている。	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	生命維持や食べることの楽しみが様々な意欲につながる。	/	/	/	法人栄養士がバランスのとれた献立を立案し、一括で食材を準備している。調理専門の職員を配置し、2ユニット分を調理している。キッチンユニットそれぞれにあり、食後の後片付けを同じテーブルに着く利用者同士が行っている姿が見られた。好みや嗜好、アレルギーに関して入居時に把握し、状態によって食材を代替して対応している。食器類は使い慣れた持ち込みのものや、使いやすいものを事業所で準備して使用している。職員は利用者の食事の介助や見守り、箸が止まってしまうがちな利用者に食べてみようかなという気分を高める声かけを行ったりとサポートしている。職員は交代で休憩を取るため一緒に食事は摂っていないが、同じテーブルでおやつや飲み物を摂り、一緒に過ごす時間を作る工夫をしてほしい。離床が困難な重度の利用者は現在いないが、食事介助が必要な利用者には細やかに説明を取り入れながら、他の利用者との会話を楽めるよう支援している。法人栄養士に栄養や調理の相談ができ、アドバイスを受けられるが、利用者のリクエストに応じたり、昔のなつかしさを楽める献立を取り入れるなど、協力が得られるよう連携を高めて欲しい。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	×	献立は栄養士が考え、調理は職員が行っているが、後片付け等は手伝ってもらうこともある。	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	意欲がある方は後片付けを手伝ってもらうこともあるが全員ではない。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	アレルギー・食事制限がある利用者は現在いないが苦手なものを把握し配慮している。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	△	栄養士が献立を考えており、調理の際には苦手なものは配慮し提供している。	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	ミキサー食はないが、刻み食でも皆が同じ食事をしているとわかるよう盛り付けや食器の位置を工夫している。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	家から持ってきたものや使いやすいものを使用している。	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	一緒に食事はしていないが、見守り、食事介助を行っている。	/	/	△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	声掛けを行い、表情や口の開き具合から判断して本人のペースで食べている。	◎	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	一人一人の状態を把握し、必要な摂取量が確保できるよう声掛けしている。	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	好みの飲み物を飲んでもらったり、医師に相談し栄養補助食品を使用したりしている。	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	×	栄養士が献立を作っている。	/	/	○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	定期的な消毒、保存方法を意識している。	/	/	/	

愛媛県グループホームさわや家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケアの大切さを把握しつつ声掛け、介助を行っている。	/	/	/	口腔内の違和感や義歯の不具合などの訴えがある場合は、訪問歯科受診につなげ、早期対応に努めている。自分で口腔ケアができる利用者には声かけ誘導しながら見守り、必要に応じて介助して清潔保持できるよう努めている。自分で口腔ケアができる利用者の口腔内の健康状態は見落としがちになるため、定期的に全利用者の把握をしていくことを期待したい。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	△	全員にはできておらず、口腔ケア時に見られるよう意識している。	/	/	△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	×	特別な指導は受けていない。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	本人ができない所は支援している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	できない時は支援し、うがい等できる所は声掛けにて支援している。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	△	不具合がある場合は家族に相談の上、往診に来てもらっている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	できるだけオムツに頼らないよう、本人のタイミングで排泄できるよう心掛けている。	/	/	/	トイレでの排泄を基本とし、できることが継続できる、身体状態に応じた排泄支援を検討している。排泄チェック表を活用し、排泄用品の使い方などの勉強会も受講し、適切な排泄ケアにつなげるように努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	便秘は心身ともに不調になり不穏につながるため、便秘にならないよう気を付けている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	本人の体調でも変化するので、日々の状態に合わせて支援している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	その都度見直しを行ったり、日中、夜間で使い分けをし支援している。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	本人や職員同士で話し合い、改善に向けた取り組みを行っている。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	△	その日の状態によってタイミングがずれる時もあるので声掛けをこまめに行いたい。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	状態に合わせて本人、家族、職員で相談しながら使用を判断している。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	日中、夜間で状態に合わせて使い分けている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	水分補給、お腹のマッサージ、体操や散歩等を行っている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	入浴日と時間帯は決まっているが、順番の要望や入浴時間は配慮している。	◎	/	○	週2回、午前中の中の入浴時間は固定しているが、利用者の希望や体調に配慮して順番を調整したり、声かけを工夫して入浴支援を実施している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	一人ずつ入浴を行うので、ゆっくり湯船につかれるよう支援している。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	できることはしてもらい、見守りを行いながら事故のないよう気を付けている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	声掛けのタイミングや順番を変え、時間をあけて再度声掛けをする等工夫している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	朝のバイタルチェックや状態を見て中止、シャワー浴、清拭等を行っている。	/	/	/	

愛媛県グループホームさわや家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	△	日によって状態が違う利用者もいるため全員は把握できていない。	/	/	/	不眠傾向が見られる場合、入居前後の生活リズムを確認し、日中の過ごし方や支援内容を検討している。本人の持つリズムを大切に、個々の状態に合わせた支援に努め、必要に応じて医師に相談している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	△	リズムの把握に努めているが、原因がわかっても対応できない時がある。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	生活リズムを整える所から始め、眠剤は職員、医師で相談し最終手段にしている。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	本人に日中その都度休みたいか尋ね対応している。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	現状職員から電話をかけているが、本人や家族から希望があれば支援していきたい。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	利用者によっては対応しているが、促しても断られることが多い。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	×	職員を通じてできないので、気兼ねなくはできていない。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	×	届いた手紙は本人に渡しているが返信まではできていない。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	利用者によっては家族と協力し対応しているが、全員ではない。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	社会参加の意識の向上につながる。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	移動スーパーでの買い物のみで、日常的にはできていない。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	週に一回移動スーパーは来るが、外出しての買い物はできていない。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	家族と相談の上お金を所持している利用者もいるが、全員ではない。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	家族と相談の上所持している。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	預かり金規定、出納帳の確認等家族へ説明し同意を得ている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	×	外部サービス等なかなか取り入れられていないが、本人や家族から要望があれば対応できるように支援していきたい。	◎	/	○	利用者や家族等のニーズに対し、外部サービスの活用を検討するなどの対応を柔軟に行っている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関が広く開放的で気軽に出入りできるようにしている。	◎	◎	○	エントランスホールは明るく整備され、やわらかい色調で親しみやすさを感じられる。事業所がある建物3階のホールには、年代物の端午の節句兜や古筆筒、茶道具を職員や代表者が持ち寄り、季節に応じた和みの空間が演出されていた。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	共用の空間が広く車椅子の方も安全に移動できる。また利用者と職員で作った季節感のある飾りつけも行っている。	◎	○	○	共用の空間はどれも十分な広さと高さがあり、落ち着いた色調の壁面や家具、さまざまな場所にソファを設置している。紫陽花の花を見て利用者同士が会話を楽しんでいる和やかな雰囲気が見られた。整理整頓が行き届き、エアコンの風量をルーバーで調節して居心地よく過ごせるよう配慮している。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日掃除し、天気の良い日は太陽の光を入れたり空気の入換えをしている。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節の花を飾ったり、利用者で作った飾りを飾ったりと季節感を出せる工夫をしている。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	ホールが広くソファがいくつかあるので個々にくつろげる空間になっている。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	△	トイレがホールに面しているが、内部まで見えないようドアの開け閉めに注意している。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	家で使い慣れていたものを持ち込めるので、本人にとって居心地の良い環境作りができています。	◎	/	○	居室には利用者の好みのものを自由に配置して、居心地よく過ごしてもらっている。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	居室、教養空間が広く自由に過ごせるので、導線部分に物を置かないよう配慮している。	/	/	○	自分の席がわからなくなりがち利用者には自分の席がわかるようにテーブル表示したり、共用のトイレには利用者目線の高さに表示を掲げ、お風呂には大きなのれんがかけられ雰囲気を演出しながらもわかりやすさに配慮している。車椅子や歩行が安定しない利用者が安全に移動できるよう、動線の安全確保に努められていた。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	共用部分には細々としたものは置かず安心して過ごせるよう工夫をしている。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	新聞は誰でも読めるが、裁縫道具や湯飲み等は事故防止のためすぐ手に取れる所には置いていない。	/	/	/	
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	△	弊害は理解しているが、利用者の安全を第一に考え、事故防止のため施錠を行っている。	◎	◎	×	両ユニット出入り口にはテンキーの施錠システムがある。鍵をかけることの弊害について学ぶ機会もあり、現在の事業所での取組みが完全に利用者にとって自由な暮らしであるかと問いかけてもいる。建物全体のセキュリティ上、施錠システムを活用する事については家族等や地域住民に説明し、理解は得ている。今後も現在できる最大限の対応について検討したり、正しい認識を学ぶ機会を継続させ、鍵をかけないケアについて問い続けて欲しい。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	×	安全優先になっており、家族の同意を得ている。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	×	安全面を考え鍵をかけている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	フェイスシート等で確認し把握している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	バイタルチェック、身体状況の変化を記録し申し送りをしている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等についても気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	訪問診療時に相談、急変時には主治医とすぐ連絡が取れるようにしている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	要望があれば家族と一緒に希望する病院を受診している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	希望を伺いながら必要な医療機関と連携をとっている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診時には結果を共有し、その都度相談した上で対応している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	サマリーを提供、また直接情報を伝えている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	見舞いの際、看護師から情報を聞くようにしている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	△	母体病院とは連携が取れているが、それ以外は徹底されていない。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	訪問診療時医師に相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	主治医と24時間連絡が取れる体制がある。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	状態変化時は訪問診療時に相談し、早期治療につなげている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	利用者の身体状況を把握し、薬の内容を確認している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	薬ボックスやお薬カレンダーの使用、服薬時も職員同士、本人の前で確認している。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	新しい薬が出た時は特に経過観察を行っている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	状態変化があれば医師、薬剤師に相談している。				

愛媛県グループホームさわや家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	状態変化時にはその都度家族と相談し意向を伺っている。	/	/	/	事業所での看取りの実施はなく、利用者の状態に応じて家族等や協力医療機関と方針を共有している。また法人グループ内でフォローできる体制を整えている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	意向を书面で控え共有しており、何かある際の連携は取れている。	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	×	終末期の対応がどこまで支援できるかを見極めがまだできていない。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	管理者、ケアマネより説明している。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	何かある際の医療との連携は取れている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	その都度相談、話を伺っている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	勉強会等で学んでいるが、自主的にも勉強しなければならないと思っている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	取り決めはあるが訓練ができていないので、体制を整えて対応できるようにしたい。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	△	最新情報が確認できていない時もあるため、日頃より意識して予防に努めたい。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	△	情報に追いついていない時もあるため、意識して情報収集を行いたい。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	手洗い、うがい、マスクの着用、来訪者には消毒液を置いて対応している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	△	本人と家族の関係に配慮した上で支援しているが全員にはできていない。	/	/	/	毎週開催される地域住民との交流会、事業所や法人内で行われる行事には参加の呼びかけを行い、家族等が事業所での暮らしに触れられる機会を設けている。事業所だよりの発行を開始し、来訪する機会が得られにくい遠方の家族へも利用者の暮らしが伝わるよう改善に取り組んでいる。運営上の事柄や出来事について、面会や連絡毎に伝えてはいるが、家族が十分に理解できている状況ではないため、伝え方を改善していく必要性があり、今後の取組みに期待したい。家族等が気軽に意見を発言できるよう、どの職員も来訪時には声かけを実施している。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	面会時には居室やホール棟でゆっくり過ごせるよう配慮している。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	△	行事やレクリエーション時には参加の声掛けを行っているが全てにはできていない。	△	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	△	電話等で状況報告することはあるが「たより」が発行できていないので、今後検討していきたい。	○	/	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	主に面会時お話ししていく中で状況報告を行い、不安解消に努めている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	家族の考え、思いを伺い配慮した上で支援している。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	×	設備改修等職員が知らない時もあるので、まずは職員全員が把握し報告できるようにしたい。	×	/	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	現状家族同士の交流は行っていない。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	日常の様子を伝え、特に状態が変化した際はリスクも含め説明している。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	面会時に近況報告を行い、相談等あればその都度伺っている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	管理者より説明を行っている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	管理者と相談の上、退去があれば支援する体制がある。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	主に管理者が行っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	運営推進会議で一部の地域の方には伝えている。	/	◎	/	事業所の開設と町内会役員の代替わりが重なったこともあり、共に成長し、共に協力し合える関係性がスムーズに構築されている。地域住民と交流する機会が毎週あり、建物スペースを提供し気軽に利用してもらっている。今後も活動を継続しながら、利用者が地域とどうつながりながら暮らし続けられるかと工夫に取り組んでいけることに期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	地域行事等には参加するようにしているが、外出機会が少ないので、近隣への買い物や散歩を通して交流ができるようにしていきたい。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	近隣への外出機会が少ないためわからない。	/	/	/	
		d	地域の人気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	イベント時には来書されることもあるが、日常的な交流には至っていない。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	×	外での挨拶は行いが、建物の三階なので気軽に立ち寄ってもらうまではできていない。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	地域の人々と関わるような行事等ができていないので今後検討していきたい。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	×	地域への外出の機会が少ないので今後検討していきたい。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	×	近所への外出支援ができていない。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	利用者、家族に参加をお願いしている。	×	/	△	家族等や地域住民の参加を得て開催しているが、固定化に傾き、興味を持ってもらうきっかけが必要な状態にある。報告書や議事録に話し合いの様子を詳細にまとめており、いつ誰もが閲覧可能な状態であるが、おたよりの送付時に同封するなどして参加できなかった家族等に周知することで理解を深め、参加協力が得られるように取り組んで欲しい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	現状や行事の報告等を行っている。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	意見があれば伺っており、日常の支援に反映されている。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	二階の特養と合同で行っており、日程、時間調節を行っている。	/	/	◎	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	公表している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	毎朝申し送り時に理念唱和し実践できるよう心掛けている。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	進んで理念を伝える機会はないが聞かれたら伝えられるようにしている。	x	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	△	施設内の研修会は行われているが、外部研修は参加できていない。	/	/	/	代表者は現場への理解が深く、管理者や職員からの意見を吸い上げ、働きやすい労働環境の整備に努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	現場でその都度教わりながら仕事しているが、計画的には取り組めていない。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	x	職員一人一人の状況までは把握されておらず、要望を伝えても反映されない。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	x	個人的に研修に参加したりはするが、職場から外部研修に参加する機会がない。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	x	仕事上のストレスが溜まっており、ストレス軽減の環境は整えられていない。	◎	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	研修や勉強会等で学んでおり理解している。	/	/	/	学びの機会を持ち、正しい共通認識で統一できるように努めている。職員同士のケアを客観的に見つめながら、適切なケアであったか検討する意識を持っているが、経験の浅い職員には迷いが生じる心配もある。今後も正しい理解を深めると共に、話し合いの場を設けたり、対応方法などについても学んでいけることに期待したい。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	常に話し合いを行い、未然に防げるようにしている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	職員同士でもユニット会等定期的に話し合いを行い、常に意識している。	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	△	管理者に相談するが、すべて解決するわけではなくケアに影響することがあるので自分自身も注意したい。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	△	理解できていない所もあるので、勉強会等を通じて学んでいきたい。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	△	その都度状況に合わせて話し合いはしているが、職場全体で話し合う機会があればよいと思う。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	家族と話し合いを行い、納得のいくケアを行っている。	/	/	/	

愛媛県グループホームさわや家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	活用する場面がなく十分に理解しているとは言えないので、定期的に勉強していきたい。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	現状活用する場面はないが、相談があれば支援していきたい。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	支援が必要な際には相談できるようにしている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	対応マニュアルを作成し、いつでも見られるようにしている。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	×	定期的に訓練が行えていないので、研修等活用し訓練していきたい。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故報告書、ヒヤリハットを元に要因を考え再発防止に努めている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	職員間での申し送りを徹底し、その都度相談、検討を行っている。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	その都度対応しており、その後職員間で検討している。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	△	手順は確立されていないが、その都度管理者が主となり対応している。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	△	主に管理者が対応している。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	日常会話や、直に訴えがある時はその都度伺っている。	/	/	○	利用者からは日常生活の中で意見や要望が聞かれ、思いを伝えにくい利用者には個別に話しかけている。家族等に対し意見箱の設置もしているが、直接意見を伝えてくれていると実感している。管理者と職員との信頼関係が大変深く、介護業務にも従事するため思いを共感し合っており、利用者本位の支援につなげることができている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	面会時、電話等で要望があればその都度伺っている。	○	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	×	情報提供が行えていないので資料等準備していきたい。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	×	現場になかなか来られず、意見等は伝えられない。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	ユニット会等で意見を述べたり、その都度相談、提案を聞いて支援につなげているが、実践できていないこともある。	/	/	○	

愛媛県グループホームさわや家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	代表者は不明だが、管理者、職員は自己評価を行っている。	/	/	/	※初年度につき、外部評価実績なし。今後の取り組みのモニターとして協力が得られることに期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	学習の機会が今までなかったので今後は活かしていきたい。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	×	今回初めて評価を実施するため、今後目標達成計画を作成していきたい。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	×	今回初めて評価を実施するため、今後報告、モニターをお願いしていきたい。	×	○	-	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	今回初めて評価を実施するため、目標達成計画が作成されていない。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアルを作成し周知している。	/	/	/	地域防災に意識を高く持った住民との協力・支援体制が築かれている一方で、家族等からは不安感が高まっている現状にある。合同での訓練や話し合う機会をつくることで不安を軽減させ、今後の協力・支援体制をより強固なものにして欲しい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	定期的に避難訓練を行っている。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	△	定期的に確認できていないのでチェックリストを作成し確認していきたい。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	運営推進会議の際に話し合い連携を図っている。	×	◎	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	共同訓練に参加したことはないが、今後地域の訓練に参加する予定がある。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	地域活動に参加したことはないが、イベントホールを活用して啓発活動を行ってきたい。	/	/	/	地域住民には、一人暮らしの高齢者や家族の介護など困った時に、相談する場として、事業所の一部を活用してもらっている。市担当者や地域包括支援センターとは良好な関係が築かれ、他の事業所とのつながりや、地域の中学校、高校とも密接につながっていきこうとする姿勢が伺える。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	相談援助は行っていないが、利用者家族から知人等の相談があれば行っていきたい。	/	○	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	週に一度イベントホールを開放し趣味活動の場を提供している。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	要望があれば実習生の受け入れを行っている。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	×	他の関係機関との連携は確立されていないので今後行っていきたい。	/	/	○	